



JWU 子育てサイエンス・ラボが発行するニュースレター「ゆりのき」は子育てにまつわる様々なトピックやお気軽に参加できる「子育てサイエンス・カフェ」のご案内を掲載しています。以前の「ゆりのき」も[公式HP](#)で閲覧できます

=====**第15回子育てサイエンス・カフェ報告（9月30日実施）**=====

「クライシス(災害・パンデミック)から子どもの日常生活をとりもどす」

現在、大地震、気候変動の影響と思われる自然災害、新型コロナウイルス感染症など、様々なクライシスを経験します。これらに対しては、その状況をただ恐れるだけでなく、情報を正しく認識し、共有して、対策を立てる努力が重要と考えます。特に、子どもの日常生活をとりもどすために、保育施設の関係者が懸命に努力されていることをお話させていただきました。



おいても、子どもたちは放射能の恐怖により外遊びが困難となるほか、活動が著しく制限されることとなりました。子どもを受け入れた保育施設の多くは、自ら除染をし、室内や園庭の各地点の放射線量を定期的に測定しながら、懸命に子どもたちの生活をとりもどす努力をされてきました。また、放射線量を測定する家庭もあり、それぞれ暮らし方を工夫していました。市民自らが科学的測定を行い、自分たちの暮らし方に反映させる努力を重ねており、市民自らの科学に対する意識の高まりを感じています。

3. 新型コロナウイルス感染症:保育施設はどのように対策をしたか？

コロナ禍の日本では、ステイホーム、不要不急の外出を控えることが奨励され、公園ですら閉鎖されました。その中で、保育施設は、経済活動のため、3密を回避しながら、子どもの受け入れを求められました。感染症対策には、マスク・消毒の徹底に加え、換気が重要です。保育施設では、子どもの活動と二酸化炭素の関係を調べ、適切な換気の方法を探ることにより、保育が実施されました。講演では、スウェーデンの保育施設の対応をご紹介しましたが、ここでは、豊かな園庭、隣地には森があることが重視されており、コロナ禍においても、外出が奨励され、子どもの屋外活動を徹底していました。

最後のまとめとして、2020年に生誕200年を記念して発行された『ナイチンゲールの越境』（日本看護協会出版会）をとりあげました。ナイチンゲールというと、クリミヤの天使というイメージですが、科学者として卓越した方であり、常に現実を正確に観察しながら、科学・技術における各専門分野の知識に基づき、生活の改善を図っていくという越境の科学者でした。私たち一人ひとりも、子育てにかかわるサイエンティストとして、科学と生活を結びつける努力を重ねていきたいと思います。（家政学部住居学科 定行 まり子）

1. 東日本大震災:保育施設はどう子どもたちを守ったか？

沿岸地域にある保育施設では、「地震＝津波」という認識に基づき、子どもたちをつれて逃げることで命を守りました。高台に位置していた保育園でも、さらに高い場所まで子どもを連れて逃げています。こうした適切な行動には、日ごろから毎月欠かさず実施されてきた避難訓練が重要な役割を果たしました。保育施設では、地震、火事、水害、噴火など、様々な災害について、その災害の規模や起こる場所や時間を想定した状況に対応すべく訓練をしています。地域の特徴をよく理解し、関係者と共有して、避難対策を立て、訓練を実施してきた保育施設の地道な活動が子供たちを守ったと言えます。

2. 原発災害:保育施設はどう対応したか？

原発近隣の地域の生活は、見えない放射線により大きな混乱がありました。政府により、居住可能とされた地域に

=====**子育て関連 卒論紹介**=====

音に着目した子どもの外遊び環境に関する研究

(2022 年度家政学部住居学科卒業生 吉武 美智 指導教員：薬袋 奈美子)

近年、子どもの声が近隣住民から騒音と捉えられ、公園が閉鎖に追い込まれたり保育施設での園庭遊び時間に制限が設けられるなど、外での遊びが制約を受けることが増えています。子どもの声の大きさや音に関する苦情が発生しやすい場所を明らかにするため、屋外での騒音計を用いた音の測定とまちなかでの危険迷惑行為を共有する誰でも使うことのできるサイト「道路族マップ」を用いた調査を行いました。

音の測定は、大学から徒歩 5 分ほどの場所にある雑司ヶ谷公園にて行いました。測定の結果、子どもの声はよく響き大きな音であるように感じられましたが、騒音計の数値としては風や交通音などとそれほど変わらず、子どもの声が特別大きな音ではないことが確認できました。また、公園内にある屋内施設「丘の上テラス」では子ども向けのイベントが窓を開放した状態で行われており、外まで音が漏れ出ていました。このことから、子どもの声への苦情は屋外だけでなく屋内で発生する音も対象となる可能性があります。開放する窓の選択・開け具合の調節など、室内の温度調節や換気方法の工夫が苦情対策につながると考えられます。

音に関する苦情発生地点の分析は、道路族マップに投稿された苦情地点を Google マップのストリートビューで確認するという方法で行いました。その結果、子どもの声と外遊びにまつわる音への苦情は、1)築年数の古い建物と浅い建物が混在する場所 2)建物の後退距離や駐車場など空間のある場所 3)道路幅の狭い場所 4)植栽の量が少ない場所、の 4 つの場所で発生しやすいことが明らかとなりました。古くから住んでいる人が転居してきた家族連れを騒がしく感じること、道路幅の狭い場所では交通量が少ないため子どもにとって安全に外遊びができる場所になることなどが、苦情の発生要因であると考えられます。

子どもの声への苦情は、日頃どの程度近隣住民とコミュニケーションを交わしているか、また、個人の音の捉え方にも大きく影響するとされています。今回明らかにした物理側面以外の観点からも、改善の可能性を模索していきたいと考えています。

子どもの声や遊びによる音への苦情が発生しやすい場所



築年数の古い建物と浅い建物が混在



道路幅の狭い場所



植栽量の少ない場所



空間のある場所

===== 板橋区教育委員会との連携による子ども向けイベントのご紹介 =====

板橋区立中央図書館「みんなで歌おう！わらべ歌」を実施

(家政学部児童学科 教授 根津 知佳子)

9月10日(日)、本学と包括連携協定を締結している板橋区教育委員会との連携イベント「みんなで歌おう！わらべ歌」が板橋区立中央図書館で行われ、地域の小学生児童が参加しました。今年2月開催の第1回に続き第2回目の開催となりました。

本イベントは、板橋区立中央図書館の姉妹図書館であるイタリアのポローニャ市立サラボルサ児童図書館が取り組む「POLPA(ポルパ)」と呼ばれる「わらべ歌の収集プロジェクト」に賛同して行われています。楽しく遊びながら日本のわらべ歌を収集、整理してサラボルサ児童図書館とポローニャの子どもたちに紹介することが目的です。そのため、「音楽を通じたコミュニケーション(音楽教育学)」を研究する本学家政学部児童学科の根津知佳子教授が講師を務めています。

わらべ歌は、古くから伝わる子どもの歌で、同じ歌でもいろいろな歌い方や遊び方があります。また、子どもたちが自発

的に歌うので、「あそび」「からだ」「ことば」と密接に関わっています。まりつき(あんたがたどこさ)やお手合わせ(おちやらかほい)、手遊び(お寺のおしょうさん)などは、世代や地域をこえて親しまれているわらべ歌の代表例です。

全員で体を動かしたり、思いついたわらべ歌を歌ったりしながら13のわらべ歌を収集することができました。

次回開催は12月17日(日)の予定です。区内在住の小学生はどなたでもご参加いただけますので、ご興味のある方は下のQRコードからお申込みください。



お申込み
はこちら▼



板橋区立中央図書館「楽しく学ぼう！親子読み聞かせ講座」を開催！

(家政学部児童学科 准教授 今田 由香)

10月5日(木)、板橋区立中央図書館で「楽しく学ぼう！親子読み聞かせ講座」が開催され、絵本学が専門の家政学部児童学科 今田由香准教授が講師を務め、児童学科の3年生9名が運営のサポートを務めました。

本講座の対象は板橋区内在住、在勤、在学の、3歳までの子どもと保護者の方で、当日は13名が参加しました。今回取り上げた「赤ちゃん絵本」とは、0歳から2歳頃までのはじめて絵本と出会う子どもたちが楽しめるように工夫が凝らされた絵本のことを指し、「ファーストブック」とも呼ばれます。講座の冒頭には、今田准教授から「赤ちゃん絵本」の特徴や選び方、図書館の活用方法などのレクチャーがありました。「赤ちゃん絵本は、子どもが自分の生きる世界に関心を持ち、他者や環境と主体的に関わることの面白さを知るためにあります。また、赤ちゃんの育ちを支える大人が、赤ちゃんに触れ合うことの喜びを味わうためのツールでもあります。楽しみ方は自由なので、一緒に絵本の世界で遊んでみましょう」と、今田准教授から楽しく読み聞かせを行うためのアドバイス

があり、さっそく図書館が準備した各種絵本を読んでもらうことに。

認定絵本土の資格取得を目指す児童学科の学生もサポートに入り、読み聞かせを行うと、子どもたちは「赤ちゃん絵本」の特徴である鮮やかな色に興味を示したり、明快なストーリーに手を叩いて喜んだり、各々の楽しみ方で絵本の世界に触れていました。

今回の講座は、子どもたちとその保護者に絵本の魅力を伝えるとともに、学生たちにとっても絵本を通して子どもたちと触れ合えた貴重な機会となりました。



=====**次回の子育てサイエンス・カフェは！**=====

第16回 子育てサイエンス・カフェ

参加無料



オンライン開催



いま、子どもの”食べる”を考える

講師：家政学部食物学科 教授 太田 正人



日時：2023年12月2日(土) 13:00~14:30

申込：<https://forms.office.com/r/Dw627GPHbL> または

QRコードからお申込みください。

お申込受付後、返信メールにて Zoom 詳細をお送りします。



概要：子どもたちが健やかに育ち、楽しそうな毎日を暮らしていけるためには、子どもたちの”食べる”という力をしっかりと育んでいくことが大切な能力となります。最近では、子どもの食に関して、栄養素摂取の偏り、朝食の欠食、肥満の増加、女性では思春期における やせの増加など、様々な問題が出てきています。今回は、子どもの”食べる”ことに関して、歯やお口のはたらきの変化も含めて、乳幼児から思春期までを対象に考えてみます。

●主催：日本女子大学社会連携教育センター

=====**会員募集中！**=====



ラボ 協力会員 募集中！！

お子様と大学の研究に
参加しませんか？

日本女子大学「JWU 子育てサイエンス・ラボ」では、子どもの発達（例：ことば、コミュニケーション、見る力の獲得）や子育てについて、種々の学術調査を行っています。

ラボ協力会員に登録して、お子様と一緒に、本学の研究に参加しませんか？

（調査ごとに、ご登録者の中から年齢等の調査条件に合う方にご連絡します。調査内容・所要時間・謝金の有無等を担当者が説明し、参加をご了承いただいた場合は、ご都合に合わせて調査スケジュールを調整します。）

「ラボ協力会員」詳細、ご登録方法は**こちら**▶
ラボ協力会員募集中→下スクロール→「登録は**こちら**」



「JWU 子育てサイエンス・ラボ」を運営する社会連携教育センターの公式 SNS アカウントです。

